平成２９年度　熊本県「生きる力」を育む研究指定校
（心の教育研究推進校）

いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して

～自己を見つめ、共に考える道徳の授業～

はじめに

御船町立御船小学校　校長　大脇　為久

本校では、昨年度より「いのち輝き、自他を『つなぐ』道徳教育を目指して」を研究主題とし、児童が日常の体験やその時の考え方や感じ方を生かして道徳的価値の理解を深めたり、自己を見つめたりする指導の在り方について研究をして参りました。本年度はその２年目になります。その成果の一端を授業及び分科会、全体会において公開させていただきます。

さて、子どもたちが社会人として活躍するであろう１０年後、２０年後の社会は、大きく変化していることが予想されます。このような社会において、道徳で自分の生き方に関わることを学んだ子どもたちが、感性を豊かに働かせながら日常の行動によい変化をもたらし、意欲をもって活動し、よりよく問題を解決できる力を育成することができればどんなに素晴らしいことでしょう。ご参会の皆様とこれからの道徳教育や道徳の授業の在り方を考える場になることを期待しています。

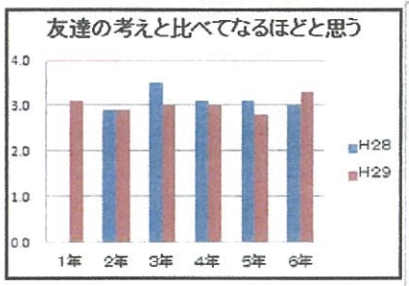
最後になりましたが、これまでご指導、ご支援いただきました熊本県教育委員会、熊本県上益城教育事務所、御船町教育委員会をはじめ関係の皆様方に心から厚くお礼を申し上げ、ごあいさつといたします。

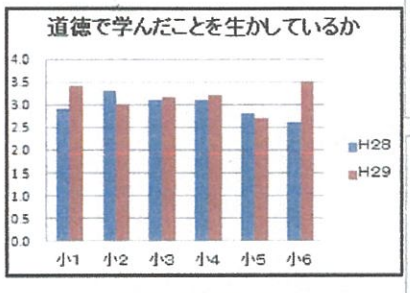
成果と課題

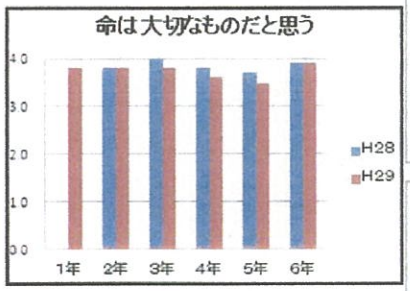
【仮説１について】

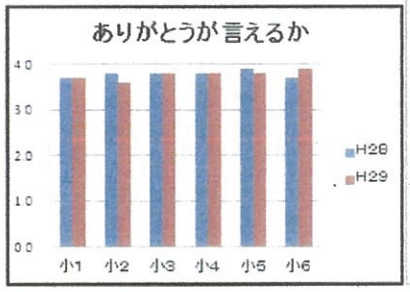
・体験を生かし、自分を見つめさせる工夫をしたことで、児童にとって教材が身近に感じられ、積極的に道徳の授業に参加するようになった。道徳教育全体計画別葉の活用は効果的だった。

・授業で自分を見つめさせる際、写真や心情円盤等の活用をした。心情円盤は、書くことが苦手な児童にも活用できた。









【仮説２について】

・ペアトークやグループトーク等の多様な話合い活動を取り入れ「共に考える道徳の授業展開の工夫」を行った。そのことで、児童の考えが深まる場面が増えた。左記のアンケート結果では６年生に伸びが見られたが、残念ながら他学年では伸びが見られなかった。今後の課題として、対話的活動の充実を図る必要がある。児童にとって話し合いたくなるような「必然性のある発問の工夫」をしたり、自分の意見と友達の意見を比べて問い返しをさせるなど、対話することで学びが深まる工夫を続けていきたい。

【仮説３について】

・難しい道徳の評価であるが、「交換授業」を実施することで、じっくり自分の学級の児童がどのような考えをもち、どのような態度で授業に取り組んでいるか等、児童のよさや成長を評価することができた。

・評価カードを通知表の所見欄に活用したことで、児童のよさを保護者に伝えることができ児童の自尊感情を高めることができた。

【研究全体を通して】

・行動化が課題であったが、平成 29 年度には「授業で学んだことを生かしているか」という児童の割合が半数以上の学年で増えている。自分のこととして考えさせる工夫や、学びを体験とつなぐ取組をした成果である。

・「命は大切なものだと思う」というアンケートの結果では、平成２８年より平成２９年が下がっているものの、平均３．７ポイントと、とても高い値を示している。

・「ありがとう」と感謝の言葉を言える児童が着実に増えている。

おわりに

御船町立御船小学校　教頭　山下　淳子

「僕たちも一緒にしたいです」台風通過後、中庭を片付けている職員を見つけて、一緒に掃除をしたいと申し出た児童。熊本地震の際、御船小のために地域で募金をしてくださった方のために感謝のメッセージを自ら送りたいと申し出た児童。体験を生かし自己を見つめさせる本校の授業実践の成果が児童の姿となって現れています。私たち職員はこの児童の変容を自分たちの喜びとし、更に研究を進めていく所存です。

最後に、本校の研究推進に当たって、貴重な指導・助言をいただいた熊本県教育委員会、熊本県上益城教育事務所、御船町教育委員会及び関係者の皆様方に心より感謝いたします。